



文責 校長 山本 智文

「魔法の言葉」を使いこなす教師とは！

私は、「言葉」には「魔法のような力」が備わっていると常日頃思っています。

例えば、あなたがかつての職場とはまったく雰囲気の異なる会社に勤めることになったと想定してみましよう。職場にいと、どこからともなく「〇〇さんって、何だかきまじめすぎて、付き合いづらいよね。」というあなたについての同僚のうわさ話が聞こえてきました。すると、あなたも「なんだか今度の職場はやりづらそうだなあ...。」と思い、気がめいってしまうことでしょう。逆に、新しい職場で「〇〇さんって、何だか力がありそうだし、信頼できそうね。」「一緒に働けて良かったわ。」という声が聞こえてきたとしましょう。すると、あなたも「今度の職場は、私の事を受け入れて認めてくれそうだわ。」と感じ、やる気に満ち溢れてくることでしょう。

実際のあなたがしていることに全く違いがなくても、このようにたまたま職場の人があなたに対してもらった印象が少し違うだけでも、こうした事態は起こりうるのです。前者の場合と後者の場合とを比較すると、あなたの仕事へのやる気は全く違ってくることでしょう。たとえあなたが、「どんな環境に置かれてもベストを尽くそう！」と考えていても、自分の意志に関わらず、どうしても「やる気」に違いが出てきます。それが人間というものでしょう。

ほどなくして、あなたの気持ちの違いは、同僚たちに伝わっていきます。その結果、前者の場合、あなたはいつの間にか自分でも「私は、この職場には合わない。」「私は、この職場では無能な人間なのだ。」と、つぶやくようになります。その結果、あなたは本当に無能な人間になってしまうかもしれないのです。その後、あなたはつぶやくかもしれません。「いったい、どうしてこんなことになってしまったのだろう。」と。その時思い出すのは、今の職場に就職して一週間後に耳にしてしまった「うわさ話の言葉」です。同僚からたまたま聞いた自分に対する「ネガティブな言葉」によって、職場に対する気持ちもネガティブなものに変わってしまうのです。その結果、自分でも自分を「無能な人間」と思わざるを得ない現実的な状況が生み出されてしまったのです。このように考えてみると、「言葉が現実をつくってしまうのだ！」とさえ、言いたくなくなってしまいます。

この事例で言うならば、職場で何気なく発した同僚に対する否定的な言葉がまたまた本人の耳に入ってしまったために、本人の気持ちをネガティブなものに変えてしまい、現実もその通りになってしまったのです。

このように、人の想いは、現実にかきわめて大きな影響を与えてしまうのです。そして、その想いはどのようにしてつくられていくかというと、多くの場合、それは他者が「その人について語った言葉」によってであり、それを聞いた本人が、そのことをどのようにして受け取ったかによるのです。自分自身について他者や本人が語った言葉が、その人が自分について抱くセルフイメージを変え、現実をつくりだしていくのです。

私は、呉市教育委員会で指導主事・管理主事をしていたころ、たくさんの教師の授業を参観しました。教

室に一步足を踏み入れただけで、クラスの雰囲気は瞬時に分かりました。「わあ、この教室はとっても温かい雰囲気につつまれている。」なぜ、そう感じるかは、教室にいる「一人の教師の語る言葉」でした。通り一遍な声掛けではなく、子どもたちのやる気に灯をつつける、それも温かい声かけなのです。こういう声かけを毎日、シャワーのようにあびている子どもたちだから教室全体が温かい雰囲気につつまれているのだなと感じました。

一例をもとに、「言葉のもつ力」について考えてきましたが、子どもに対して、その子のよさを認めてポジティブに関わる教師が多い学校と、逆に、子どもの悪いところ探しの名人ではないかと思えるくらいネガティブな言葉を発し続けている教師が多い学校とでは、「子どもの心に与える影響」は、雲泥の差が出てくるのです。「ほめ言葉のシャワー」を浴びた子どもたちは、得もしれぬ希望を抱き始めることも少なくありません。まずは、大人の発する言葉が、子どもの心にどのような影響を与えるか、考えようとするのが大切です。そのためには、自分が子どもに発した言葉の次に子どもが発する言葉（フィードバック）に耳を傾け、なぜそのような言葉が子どもから出たのか、考えることです。また、子どもに語りかけ、そのフィードバックをみていくことです。この繰り返しが重要になってくると考えています。

私たち教師は、巧みな言葉で子どものやる気をうまく引き出す「**言葉の魔法使い**」になりたいものです。

全力で走った持久走大会！

2月7日（金）に、「令和6年度持久走大会」を開催しました。

日頃、練習してきた成果や、自分の限界にチャレンジする子どもたちの姿が観られることを心待ちにしていました。

運動場及び学校周辺周回コースにて開催された持久走大会。寒風による寒さが身に染みる中、子どもたちは元気に運動場に集合しました。私は、開会式の校長挨拶の最後に、「（省略）自分の心と向き合い、自分の限界にチャレンジし、最後まで力いっぱい走りぬく蒲刈小学校の子どもたちであることを願っています。」と話しました。その後、準備運動を終え、低学年からのスタートです。「自己ベストをめざし全力で力走する子どもたちの姿」に、心がとても熱くなりました。他学年の子どもたちや沿道の応援の声も大きくなり、より一層頑張ることのできた持久走大会となりました。応援する子どもたちは、最後の一人がゴールし終えるまで「がんばれー!」「がんばれっ、がんばれっ!」と仲間の力走に対して一生懸命応援している姿がありました。この姿は、「**蒲刈小学校の子どもたちが持っている感性**」だと思います。蒲刈小学校の子どもたちが一つになったことを実感した瞬間でした。素晴らしい光景を見ることができ、改めて子どもたちから勇気をもらいました。

児童の安全確保・応援のために早朝よりお集まりいただいた地域の皆様、保護者の皆様、本当にありがとうございました。子どもたちにとりましてとても励みとなり、多くの子どもたちが力をいただいたものと感謝いたします。



「評価」活動の重要性

本校では、「**自分への評価(自己評価)**」が、自らの生き方を考えることのできる重要な学びへとつながっていくものと考えています。それには、「**他者(仲間・教師・保護者・地域の人々)がみた自分**」と比較して自分に迫っていくことが重要です。

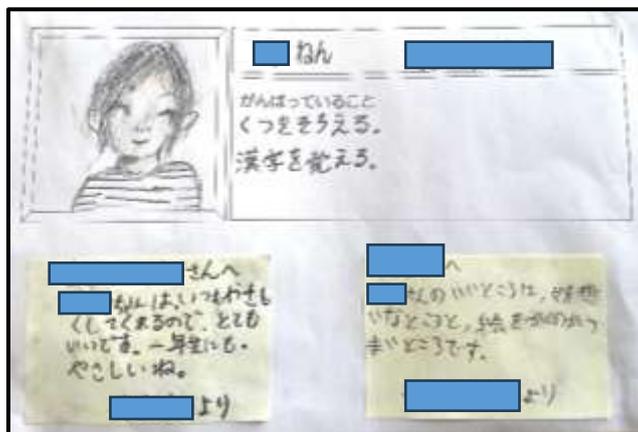
その中でも、子どもたちがお互いに高め合いながら自分に迫っていくことが効果的であると考えています。

「他者」の中でも、自分自身に身近な存在で、いつでも共に活動できるのは「仲間」です。仲間同士が共に学び合う中で活動の高まり、自己の成長を図っていきたく今年度も様々な評価活動に取り組んできました。「**自己評価を支える相互評価**」を実施することにより、「**友だちが見取った自分の姿を知り、自分自身をもう一度振り返る**」そのことにより、より一層自分に深く迫っていくのです。子どもたちにどのような評価をあげていくかが、子どもたち一人一人を一回りも二回りも成長させていくことにつながっていくのです。

今年度、様々な行事等において保護者・地域の皆様方からたくさんの評価をいただきました。子どもたちにとって、大きな励みとなっています。次年度も私たちは「**質の高い評価の在り方**」について研究し、実践してまいります。引き続き、ご理解とご協力をいただけますようよろしくお願いいたします。



1・2階踊り場の掲示板上に掲示された評価シート



児童発表会

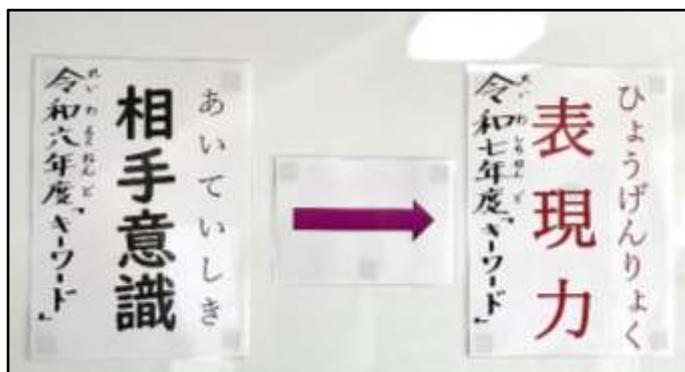
今年度も全校朝会の場において「児童発表会」を実施しました。

全校朝会は、「児童の学校生活に一つの転機を与え、学校生活への希望や意欲がもてるような動機付けを行う」ことを主の目的ととらえ取り組んできました。中でも、「児童発表会」は「**子どもたちの表現力の向上**」を目指す一つの試みとして実施してきました。「音読」や「学んだことの発表」「合唱」「自己の目標」「自己の振り返り」等、指導者が様々な企画をし、子どもたちの「**表現力の向上**」を目指してきました。

私は、2月18日の校長の話の中で次のことを子どもたちに伝えました。「今年度のみんなが意識するキーワードは漢字四文字。何だったかな?(省略)そうです。「**相手意識**」でしたね。蒲刈小学校のみんなは様々な場面でこのキーワードを意識し、仲間に声かけをしたり、どう立ち振る舞ったらよいか実践したり



してきましたね。校長先生は、来年度のキーワードを決めました。悩みに悩んだ結果、漢字三文字。最後に“力”が付きます。何だと思いませんか？(省略)正解です。「表現力」です。よく分かりましたね。さすがです。なぜ、このキーワードにしたかという、今以上に『表現力』を高めてほしいと思っているからです。今日は時間がないので具体的な内容については、次回お話しします。」と。



【玄関右横の掲示版】

令和7年度、スタート時点で全教職員で意識統一し、ベクトルをそろえ、妥協せず、指導の徹底を図ってまいります。「めざす子どもの姿」を明確にもち、一丸となって取組を進めていきます。活動の内容等については、学校だより等で紹介していきます。楽しみ、楽しみ..。

一年間、「蒲小だより」にお付き合いいただきありがとうございました！

この一年間、「蒲小だより」を読んでいただき、ありがとうございました。私は、タブレットを肌身離さず持ち歩き、「次は、この活動を学校だよりにのせよう。」と意気込んでやってきました。「子どもたちの頑張り」「先生方のがんばり」「蒲刈小学校の頑張り」を何とかして皆さんにお届けしようと自分なりに文章にしたためてきました。量が多く、読みづらいことも多々あったのではないかと思います。パソコンの前で座るとついついスイッチが入ってしまう私です。

もうすぐ、令和7年度がスタートします。蒲刈小学校の子どもたちのますますの成長のために、教職員一丸となって尽力していきます。一年間、お付き合いいただきありがとうございました。

